

<連載(124)>

アジア最大のクルーズ客船 スーパースター・レオ



大阪府立大学海洋システム工学科教授

池田 良穂

ようやく「フェリー・客船情報99」の編集を終了し、現在印刷中。この原稿が本誌読者の目にとまる頃には、同本も完成して一部の書店（全国で3店だけ！ツキヂ書店、のりもの倶楽部、海文堂書店）には並んでいることであろう。

この本の取材のために、3月末にシンガポールに飛び、スター・クルーズの運航するアジア最大の新鋭クルーズ客船「スーパースター・レオ」のクルーズに乗船するとともに、同社のシンガポール本社を訪問してインタビューをさせて頂いた。

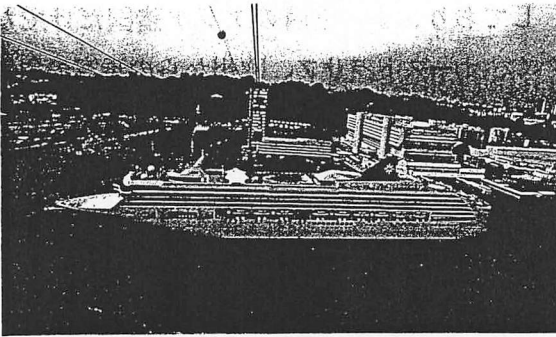
スター・クルーズは、1993年に設立された新しい会社で、バルト海で運航されていたバイキング・ラインの4万総トン級のクルーズ・フェリー2隻を購入して、シンガポールと香港起点のクルーズを開始した。アジアの市場をメインターゲットにして、安い価格で、ハイレベルなクルーズ商品を提供したこともあって急速に業績を伸ばし、つぎつぎに中古クルーズ客船を購入するとともに、7万総トン

型のクルーズ客船2隻、8万総トン型のクルーズ客船2隻の新造を発注した。

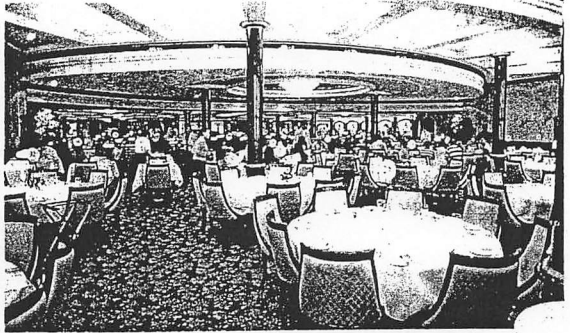
この新造船の第1船が「スーパースター・レオ」である。

スター・クルーズ は現在、東京にも事務所を置いて、日本市場の開拓にも積極的である。筆者も東京事務所で、クルーズの予約、そしてインタビューの手配をお願いした。「スーパースター・レオ」が就航して以来、シンガポールでのクルーズは大人気を博しており、最初はなかなか希望の日程での予約ができなかったが、出発2週間前によくキャビンを押えることができた。日程は、シンガポール起点の2泊3日のショートクルーズ。シンガポールを出港した後、マレーシアのマラッカとポートケランに寄港する。

同船は、年間を通じてシンガポール起点のクルーズに就航しており、日曜日にシンガポールを出港する3泊4日のクルーズ、水曜日にシンガポールを出港する2泊3日クルー



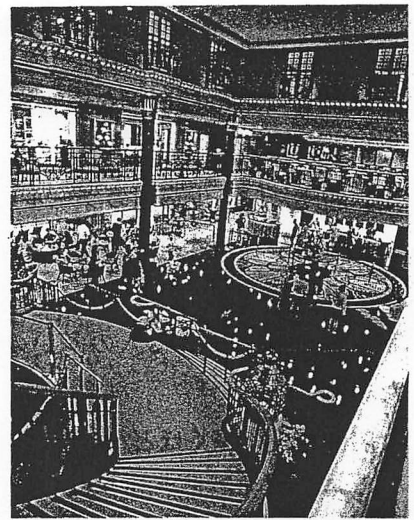
スーパースター・レオ



ズ、そして金曜日にシンガポールを出港する1泊の無寄港クルーズを繰り返している。乗客は、1泊、2泊、3泊のショートクルーズを選ぶことも、また1週間乗り続けることもできる。起点港のシンガポールを除き、1週間の中で同じ港には寄港しないように配慮されている。

食事は、カリブ海等のクルーズ客船よりも、バルト海のクルーズフェリーに近いシステムとなっている。すなわち、中華料理、日本料理、フランス料理の専門レストランから、一般的なインターナショナルな料理を提供するbuffet・レストランまで、たくさんのレストランがあり、その中から自由に選べるというもの。もちろん、これらのレストラン利用費用は、クルーズ料金に原則的に含まれている。しかし、別料金にはなるが、追加料理を注文したり、コースメニュー以外のアラカルト料理を楽しむこともできる。料理の選択だけでなく、多彩なレストランの選択もできるのがユニークなところである。レストランはフリーシットング制で、オープンしている時間の中で、好きな時間に食事をと

スーパースター・レオの
レストラン(上)とロビー(下)



ることができる。原則的に相席もさせておらず、家族や仲間だけでの食事が楽しめるようになっている。

スター・クルーズ のオーナーは、マレーシアでホテル、カジノ、遊園地などを手広く経営している。雑誌などではカジノ王と紹介されることもあり、乗船するまではカジノ中心のギャンブル・クルーズの色彩の強い船かと思っていたが、乗船してみたまったくその雰囲気はないことが分った。カジノはか

なり広いスペースをとっているが、カリブ海のクルーズ客船のように乗客の動線上にはなく、船首の行止まりのスペースを使っており、入口には屈強なガードマンが立っていて、本当に賭け事に興味のある人だけが入っていている。もちろん子供は入ることも覗くこともできない。

子供用のスペースが充実していることも、同船の大きな特徴と言える。プレイルーム、教室、コンピュータ・ルームから、幼児用の仮眠室までいたれりつくせりの施設があり、専属の女性スタッフが子供の面倒を見てくれる。船尾には子供専用のプールもある。すなわち子供連れ大歓迎のクルーズ客船なのである。お祖父さん、おばあさんから孫まで、大家族で乗船している人の多いのに驚かされた。

船内施設は驚くほどハイレベルで、サービスも多彩。そしてクルーズの料金は、安い部屋で1泊当り7,000円程度からあり、1泊15,000円もだせばバルコニー付きのキャビンが利用できる。このようにハイレベルのサービスをリーズナブル・プライスで提供できることが、カリブ海やバルト海の大衆クルーズの成功のキーポイントであるが、「スーパースター・レオ」は、アジアでそれを実現した最初の船だとも言えよう。同船の就航で、シンガポールでのクルーズ市場は再び急速に膨張

しており、また近隣のアジア諸国だけでなく、オーストラリア、欧州からの乗客の急増中という。日本からも毎航海100~200名近くが乗船するようになってきているとの事。シンガポールのクルーズが年間100万人を突破するのは目前のようだ。

筆者が、日本外航客船協会のフライクルーズ拠点調査の視察旅行に同行させてもらってシンガポールの港を訪れたのが8年前のことで在ったが、その頃はまだ海外のクルーズ客船の寄港と、数隻のギャンプル・クルーズ客船が運航されるだけ、クルーズ人口も20万人にも達しない状況であった。その後、アジア資本による、アジア人をメインターゲットにしたクルーズ会社が現われ、カリブ海やバルト海でのクルーズ事業の成功のエッセンスと、アジア人に適した内容のクルーズ事業を始めたことにより、一気にシンガポールのクルーズ市場は爆発した。

スター・クルーズは、現在、台湾起点のクルーズ客船を沖縄に寄港させているが、来年には阪神起点の韓国クルーズを始めることになっていると言う。同社によるクルーズの開始により日本のクルーズ市場の爆発も期待され、運輸省の掲げるクルーズ人口100万人構想も夢ではなくなるかもしれない。